

Or **so believed** the thousands of people [who visited her website [on which she kept a diary of her fight against cancer]].

Then on May 15, 2001 / Kaycee Nicole died from bleeding in the brain.

And **that's ^ when** things began to get suspicious.
(the time)

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

- 1. Thousands of people visited Kaycee Nicole's website. ()
- 2. Kaycee let people know how she was doing through her diary. ()
- 3. Some people even visited her at her home and became close friends with her. ()

覚えておきたい表現

動詞+so 「そのように…」

ℓ.2 : Or **so believed** the thousands of people who visited her website on which she kept a diary of her fight against cancer. 「あるいは、彼女ががんと闘う日記を書いていたウェブサイトを訪れた何千もの人々は、そのように信じていた。」

・動詞+so 「そのように…」: 前出の内容の繰り返しを避ける表現。このような場合に使われる動詞は say, think, hope などがある。ここでは主語 (the thousands ~ cancer) が長いので倒置になったと考えられる。すなわち, Or the thousands of people who visited her website on which she kept a diary of her fight against cancer believed so. と書き換えることができる。

Ex. "Do you think it will be fine tomorrow?" "I **hope so.**" 「明日は晴れると思いますか。」「晴れてほしいです。」

What is S like? 「S はどのようなものか」

ℓ.8 : she discussed **what it was like** caring for a child with cancer 「がんを患う子供の世話とはどのようなものかについて書いていた」

・What is S like? 「S はどのようなものか」: what ~ like は how と同じような意味を表す。S が形式主語 it になる場合は, like の後に真の主語の to do […ing] がくる。本文では, what 以降が discussed の目的語になっている間接疑問文であるため, was it の語順が it was になっている。

Ex. He told us **what it was like** to live in the desert. 「彼は砂漠に住むのがどのようなものを私たちに話してくれた。」

that's when [what ; where ; how ; why] ... 「…なのはその時 [それ ; そこで ; そうやって ; そのため] だ」

ℓ.15 : And **that's when** things began to get suspicious. 「そして, 事態があやしくなり始めたのはその時だった。」

・that's when [what ; where ; how ; why] ... 「…なのはその時 [それ ; そこで ; そうやって ; そのため] だ」: 前に述べたことを受けて強調する表現。「その時 [それが ; そこで ; そうして ; そのため] …だ」と訳し下してもよい。ここでは when の前に the time が省略されている。

Ex. He had a bad cold. **That's why** he didn't come to the meeting. 「彼はひどい風邪を引いていた。彼が会議に来なかったのはそのせいだ [そのため彼は会議に来なかった]。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① ケイシー・ニコルの紹介

(どんな人物か) がんで死にかかっている19歳の女の子。
(何をしていたか) ウェブサイト上で自分の闘病についての日記を公開していた。
(人々の反応) 人々は彼女が闘病していることを信じていた。

◆ ℓ.11 **some** 「あるものは: 列挙・追加」

多くの人々が彼女に寄り添い、メールを送ったり、電話したりする人までいた。

② 状況の変化

・ある日、ケイシー・ニコルが脳内出血で亡くなった。



◆ ℓ.14 **Some** 「あるものは: 列挙・追加」

・人々は落胆し、家族に贈り物を送ったり葬式に参列したりしたがる人もいた。

→ その時, 事態があやしくなってきた。

背景知識

● 政府がネット上のデマを判定?

インターネット上の情報については、既存の印刷媒体とは異なり、情報発信にあたり編集という作業を経していないため、情報の発信段階でうそを食い止める仕組みがないと言われることがある。例えば、出版社がある著者の著作物を刊行しようとする際には、編集者が間に入っているため編集段階での情報のチェックが可能になっているのに対し、インターネット上では、ある情報を発信したい人が独断で情報発信することが可能なので、うその情報が混じっているかどうかを事前に第三者がチェックすることができない。

こうしたうその情報発信の容易さから、インターネット上には真偽が定かでない情報が溢れているとして、日本の総務省が2006年にインターネット上の情報がデマかどうかを機械的に判別するシステムの開発に乗り出したことが報道された。このシステムは、ある情報とそれと関連性が深い別の情報とを比較対照することで、情報がうそである確率(「デマ率」などとも伝えられる)を表示できるようにするものだという事だ。

確かに、インターネット上の情報にはうそが紛れ込んでいるかもしれない。しかし、このようなシステムが、大手検索エンジンと連動した場合、どのようなになるだろうか。政府が政府にとって不都合な情報についての「デマ率」を操作するおそれもあるかもしれない。あるいは、自己責任でいろいろな情報を入手してある事柄を調べようとしている人にとっては、「デマ率」の高い情報が検索結果の下位にしか表示されないということになると、手広く情報を入手しようという場合に不都合が出てくることにならないだろうか。情報の選別に関わる問題を、皆さんもぜひ考えてほしい。

【深めたい人に】: 日隈一雄『マスコミはなぜ「マスゴミ」と呼ばれるのか』(現代人文社, 2008年)